



植樹祭の参加者



全国森林  
ボランティア探訪  
Vol.43

NPO法人

# 地球の緑を育てる会

## 筑波山での植樹活動



NPO 法人「地球の緑を育てる会」は、平成 13 年に自然破壊による  
 荒廃地や砂漠地緑化を目的に設立され、翌平成 14 年に NPO 法人格  
 を取得した森林ボランティア団体です。

横浜国立大学名誉教授・宮脇昭氏を顧問に迎え、専門家レベルでのア  
 ドバイスをもらいながら、植物生態系を回復する植樹事業や、地球緑  
 化を具現化することを目的として活動しています。

地球の緑を育てる会の活動  
 フィールドである筑波山は関東  
 平野の中央部に位置し、西の男  
 体山、東の女体山の二つの峰が  
 ある特徴的な山で、さまざまな  
 動物植物が生息し、万葉集にも詠  
 まれる関東の名峰の一つです。

会の活動は筑波山神社南西麓  
 の山中の荒廃したスギ・ヒノキ、  
 マツなどの針葉樹林を水源かん  
 養の森、生態系にかなった複層  
 林の再生を目的とし、植樹事業  
 を実施しています。

具体的な活動として、毎週日  
 曜日に、植栽地の間伐や除伐な  
 どの森林整備を行う一方、ある  
 程度の面積が確保できた段階  
 で、「植樹祭」を開催して活動を  
 行ってきました。

活動を始めた頃は植栽地が筑



植栽地の整備

波山の奥の方であったため、現  
 場へ行くだけでも一苦労でした  
 が、現在は裾野の方へ移動して  
 きたため、楽になりました。平  
 成 18 年から平成 22 年までの 4 年  
 間で参加者延べ人数約 2 千人、  
 1 ha 約 2 万本（17 樹種）の植樹を  
 完了しました。

今年の活動は 3 月 11 日に起き  
 た東日本大震災による入山禁止  
 や余震の影響で 3 月 26 日に実施  
 予定にしていた「第 8 回植樹祭」  
 を開催できませんでした。現在  
 も入山禁止の状況が続いてお  
 り、今後、植樹活動を再開でき  
 るよう、筑波山神社と交渉する  
 予定です。



植樹の様子



苗は背負子で何度も往復して運搬



## 育苗圃での活動

地球の緑を育てる会では、平成13年秋より、茨城県のつくばみらい市にある企業の敷地の一部をかりて、植樹用にシイ、タブ、カシ等の常緑広葉樹中心に約10樹種の苗を育てています。

苗場での活動は毎週土曜日に、行なわれ、山で拾ってきた種子を3年間育ててから植樹していただきます。この活動には、地元の方々ボランティア団体「明るい社会づくり筑波協議会(会長 村上和雄 筑波大学名誉教授)」のメンバーが当初から参加し、鉢上げ、除草、水やりなどを行っています。

## 特徴ある森づくり

会では、横浜国立大学名誉教授宮脇昭先生が推奨する「宮脇方式の森づくり」を植樹活動に生かしています。  
宮脇方式の基本的な考え方は、以下の3つのポイントになります。

- ・樹種の選択(潜在植生、土地に由来生えていた樹種の選択)
- ・幼苗を植える(発芽から3年くらいのポット苗を植樹)
- ・混植密植(植栽密度を高くし、競争させる)

また、植樹終了後、植栽地全体に稲藁を敷き詰めます。表土流失防止、雑草防止、苗の寒暖からの保護等、その効力は森の育成に欠かすことのできない重要なポイントとなります。

これらを実施することで、通常より成長スピードが格段に速くなり、10年〜20年で森が育ちます。

## 会の今後



現在、会では、筑波山での植樹活動だけでなく、企業・学校・寺社敷地・海外での植樹活動なども行っています。特に海外での植樹活動は中国・内モンゴル自治区や雲南省でモンゴリラ、サンシン、ニレ、シヨウジマツ等の苗を約11万本植樹しましたが、今後も中国での植樹は継続していく予定です。  
会としては、現在の活動を継

続していくことが最大の目標で、新しいことも取り入れつつ、会としての軸がぶれない活動が心がけています。  
また、今回の東日本大震災については、被災された方々に物的支援や義援金だけではなく継続的な支援として、植樹活動を東日本大震災の復興に結び付けることができると考えています。



つくばみらい市の育苗圃